



第101回

マグナカルタ

※2025年6月の毎日新聞記事を元にした文章です。

校閲し、直すべきところを指摘してください。

1 / 2

「法による支配」を定めた英国のマグナカルタ（大憲章）は近代憲法の「元祖」とされ、米国の独立宣言にも影響を与えた。貴族や都市代表の求めに応じ、1215年にイングランド王ジョンが描いた。以降、続く2人の王も作成している▲米ハーバード大学ロースクールは5月、「複製」として図書館で保管していたマグナカルタが「原本だった」と発表した。大きさや筆跡の特徴などから、エドワード1世が1300年に発行した「本物」と判断された▲王の徴税権を制限し、都市や教会の自由を保証した憲章である。最初に作成され800年になる今、まるで王様のように権力を振りかざすのがトランプ米大統領だ。ハーバー

大学では留学生や卒業生のビザ（査証）が取り消され、補助金が凍結された▲行き過ぎた保守的価値観の拠点と考え、「改革」させる意図があるようだ。ハーバード側は「大学の自治や学問の自由を守り切る」として裁判所に差し止めを求めるなど、徹底抗戦の構えである▲そんな中のマグマカルタに関する発表だった。図書館の担当者はこう話す。「若い世代に伝える必要があるのは、自治の重要性と、それを実現することの大切さです▲大学は1946年、羊皮紙に記された、このラテン語の文章を27・5分で購入した。原本と分かったことで、市場価値は跳ね上がるはずである。ただ、文書の重要性は「権力は制限されなけ

ればならない」との理念にある。

守るべき価値は往々にして、ドルに換算できない。